



神戸リカレント教育プロジェクト

～大学都市神戸の産官学共創による取り組み～

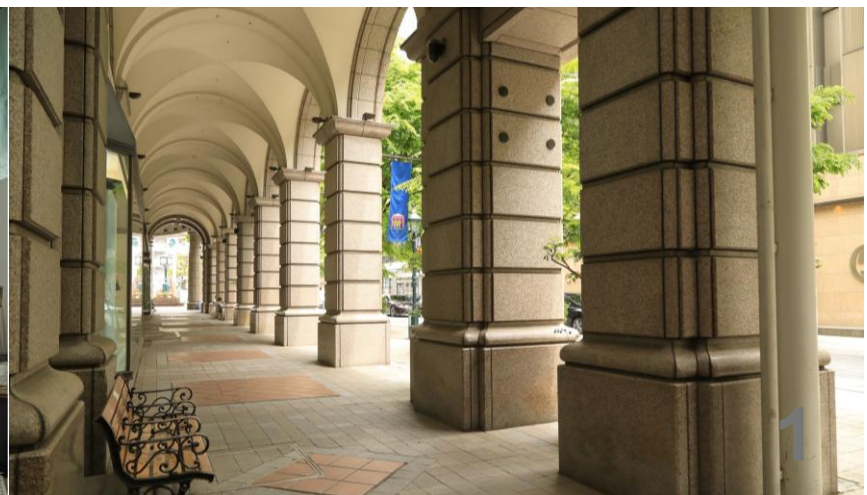


KOBE
Co CREATION
CENTER



大学都市
KOBE

一般社団法人大学都市神戸産官学プラットフォーム



大学都市神戸

歴史と特色ある教育を展開する大学、短期大学が集積

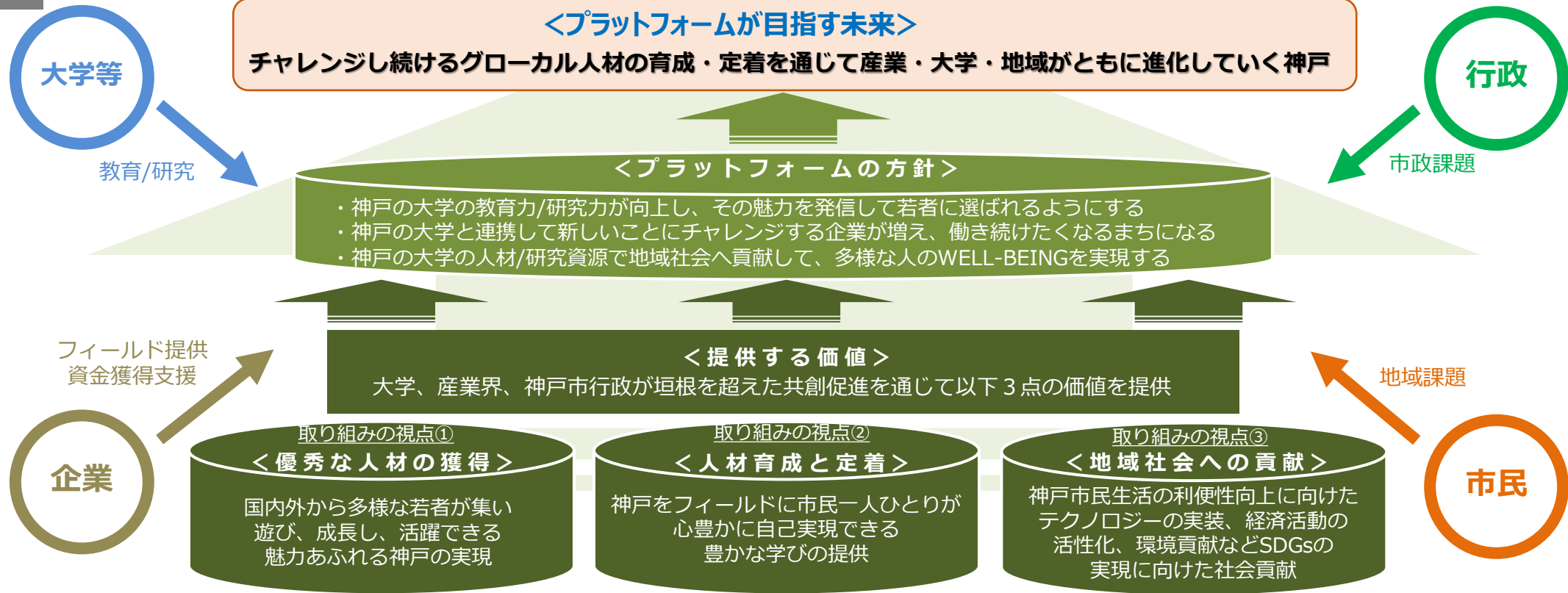
■ 神戸市内にある大学・短期大学は 20校以上

■ 神戸市内の大学の学生数は約 7万人

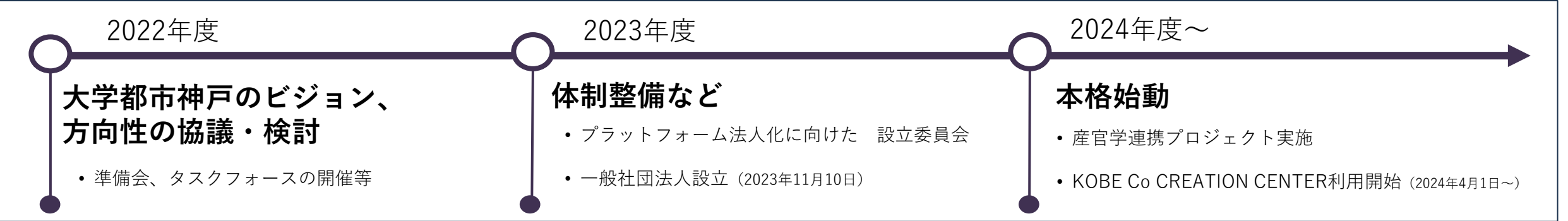
- | | | |
|---------------|--------------|-----------|
| ① 兵庫県立大学 | ⑨ 神戸教育短期大学 | ⑪⑭ 神戸松蔭大学 |
| ② 神戸市看護大学 | ⑩ 神戸親和大学 | ⑫⑮ 神戸大学 |
| ③ 神戸芸術工科大学 | ⑪ 関西国際大学 | ⑯⑰ 須磨短期大学 |
| ④ 流通科学大学 | ⑫ 神戸情報大学院大学 | ⑱⑲ 甲南大学 |
| ⑤ 神戸市外国語大学 | ⑬ 神戸学院大学 | ⑳㉑ 神戸薬科大学 |
| ⑥ 神戸女子大学 | ⑭ 兵庫医科大学 | ㉒㉒ 甲南女子大学 |
| ⑦ 神戸常盤大学 | ⑮ 神戸女子短期大学 | ㉓㉓ 神戸国際大学 |
| ⑧ 神戸常盤大学短期大学部 | ⑯ 神戸海星女子学院大学 | |

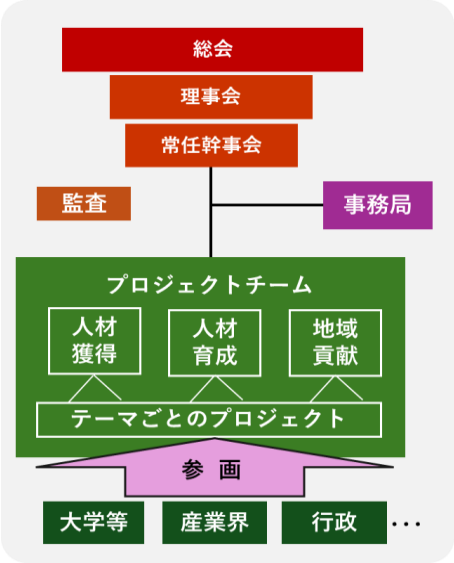
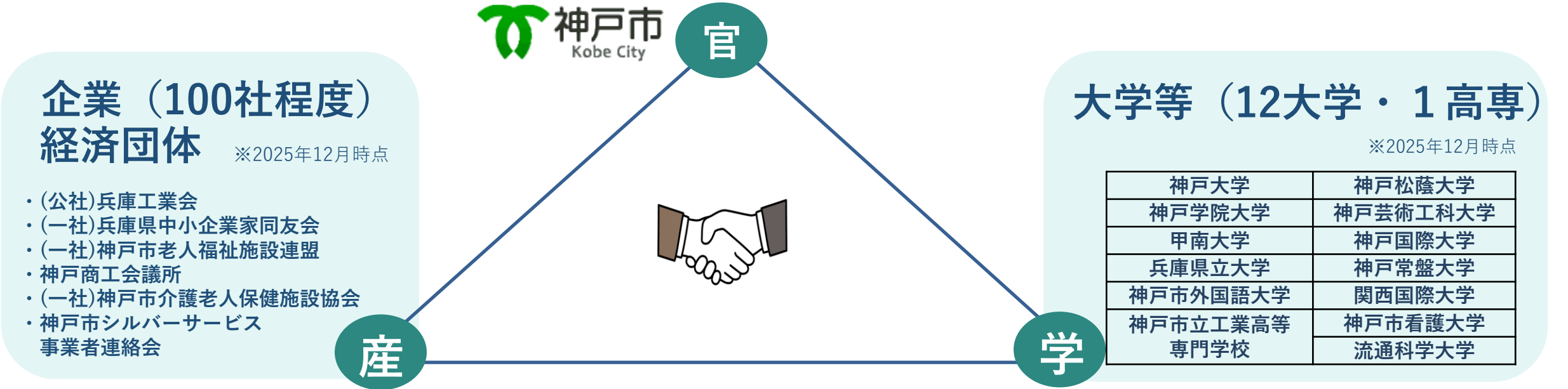


ビジョン



設立までの経緯





総会 [社員（団体の長）が出席]

- ・ 事業計画の決定等

理事会 [神戸財界出身の代表理事、市企画調整局長、大学の学長から構成]

- ・ 全体戦略や事業計画の方向性を協議、プロジェクトの認可等

常任幹事会 [大学の副学長・事務局長、神戸市、経済団体から構成]

- ・ 事業計画やプロジェクトの進捗等に関する協議、産官学連携の検討等

事務局 [大学・企業・市からの派遣職員及び契約職員により事務局を構成]

- ・ 法人の組織運営／産官学連携交流拠点の運営、参画団体間の各種調整、プロジェクトの管理や支援等

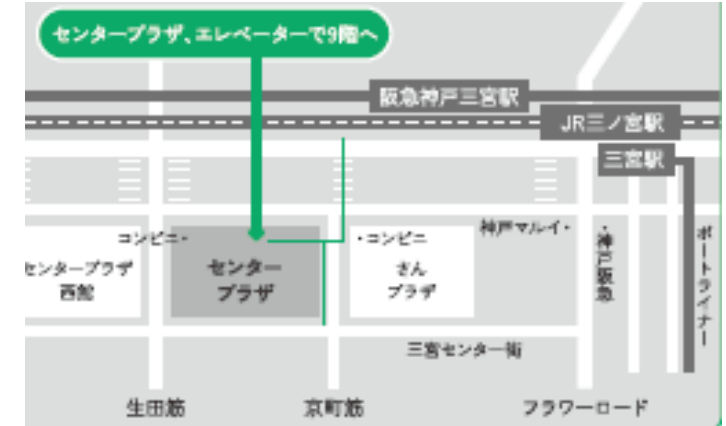
プロジェクトチーム [プロジェクト参加大学、企業、行政から構成]

- ・ プロジェクトごとにマネジメント体制を構築し、プロジェクトの企画、運営、検証・検討



産官学が連携して共創を生み出し、学生との交流を育む場として、神戸の都心である三宮に拠点を開設

所在地	兵庫県神戸市中央区三宮町1丁目9番1号 センタープラザ9階の一部
床面積	437.4㎡
部屋・スペース	ROOM A・B、MEETING 1・2、交流・コワーキングスペース
開館時間	平日 10:00～21:00（月曜日を除く） 土日祝 10:00～18:00 ※月曜日が祝日・休日の場合は土日祝開館時間（10:00～18:00）
休館日	毎週月曜日／年末年始（12月29日～1月3日）



セミナー・イベントスペース

ROOM A



- ▶ 30名程度
- ▶ スクリーン
- ▶ 小規模イベント、会議
- ▶ 「ROOM A & B」をつなげて利用可能(90名程度)

ROOM B



- ▶ 50名程度
- ▶ スクリーン
- ▶ 中規模イベント、会議

ミーティングスペース

MEETING 1



- ▶ 6名
- ▶ 50インチモニター
- ▶ 小人数会議
- ▶ 「MEETING 1 & 2」をつなげて利用可能(12名)

MEETING 2



- ▶ 6名
- ▶ ホワイトボード
- ▶ 小人数会議

交流・コワーキングスペース



- ▶ 17名程度
- ▶ 勉強、会議など

神戸の将来を支える人材の獲得

～外国人留学生にとって魅力的で「選ばれる神戸」を目指して～

- ・神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト
- ・高校生のための進路探求プロジェクト 等

神戸の未来を牽引する人材の育成・定着

～新たな価値を創出する創造性豊かな人材の育成～

・KOBELICALENT教育プロジェクト

- ・地元企業へのインターンシップ、就業体験等プロジェクト
- ・県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期インターンシッププロジェクト

人材育成や定着での貢献

神戸経済への直接的な貢献

～大学リソースを活用したイノベーション創出・事業の変革～

・若手研究者と地域等との交流プロジェクト ～KOBELICALENTアカデミックトーク～

- ・企業、行政、大学、住民が共につくる地域防災
- ・大学都市KOBELICALENT SDGs Challenge Project 等

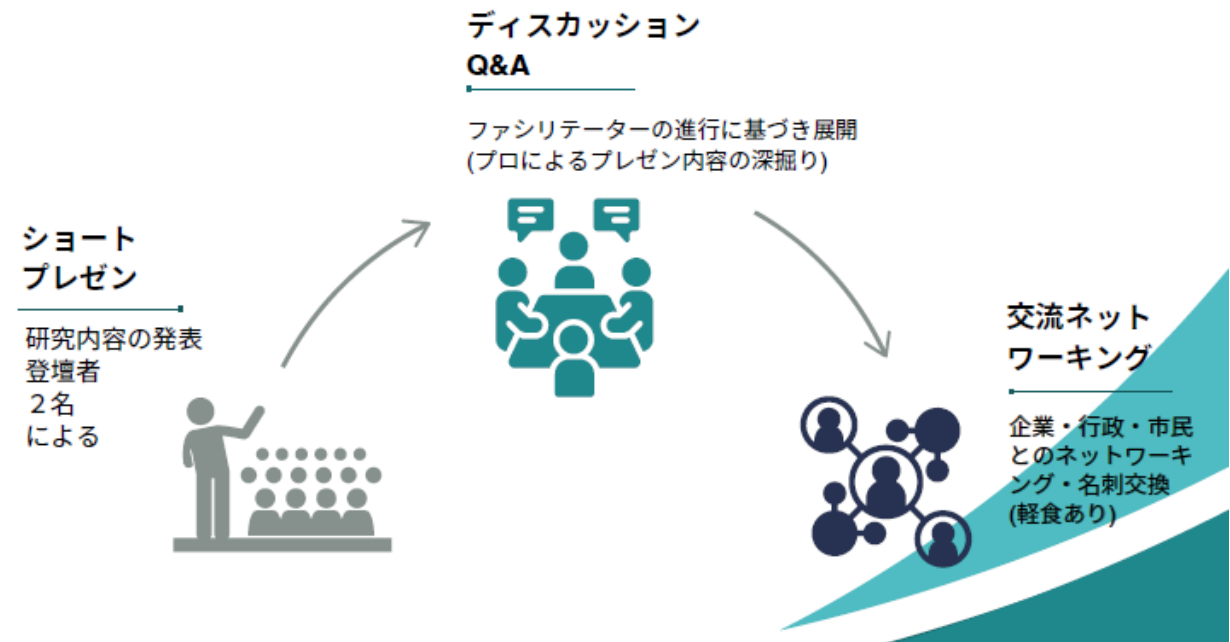
産官学のリソース提供による貢献

産官学連携の
11プロジェクト
を展開

プラットフォームが目指す未来

～チャレンジし続けるグローバル人材の育成・定着を通じて産業・大学・地域がともに進化していく神戸～

大学の若手研究者が自身の教育・研究内容を発表し、地元企業や行政関係者等と直接対話しながらネットワークを築くためのプレゼンテーションイベントの定期的な開催



第14回 大学の若手研究者ショートプレゼン&交流会
～KOBEアカデミックトーク～
雰囲気哲学と道徳の問い
感情から読み解く人間理解

12月18日(木) 18:30～20:00

開催概要

（一社）大学都市神戸産官学プラットフォームでは、大学の研究をより身近に感じていただくために、研究者対話型イベント「KOBEアカデミックトーク」を開催しています。

第13回は「アジアの国際関係と政治の読み解き—東南アジアと中国の外交から見る日本の現在地」。登壇者は、東南アジアの安全保障と外交を専門とする 木場紗綾さん（神戸市外国語大学 外国語学部国際関係学科）と、中国のプロパガンダと外交戦略を実証的に研究する 周源さん（神戸大学 大学院法学研究科）のお二人です。

東南アジア諸国の外交戦略や、中国の対外発信のあり方を切り口に、変化の激しい国際社会の中で、日本は今どのような立場にあるのかを探ります。国際政治の“今”を知り、これからの世界と日本の関係を考えるヒントが得られる貴重な機会です。ぜひ会場にお越しいただき、第一線の研究者と直接対話しながら、国際情勢を読み解く新たな視点を体感してください。

【日時】
12月18日(木) 18:30～20:00
(受付18:00～)

【会場】
KOBE Co CREATION CENTER
神戸市中央区三宮町1-1-9 センタープラザ 9階

【対象】
テーマに関心のある企業・事業者・
学生・自治体職員・市民の皆さま

【定員】
30名程度（事前申込制・先着順）

参加申し込みはこちら
※締切：12月16日(火)



プレゼンター

ファシリテーター

久山 雄甫
神戸大学大学院
人文学研究科 文化構造専攻 准教授

安倍 里美
神戸大学
人文学研究科 准教授

安部 孝太郎
(株) NTTドコモ
クロスステック開発部 担当部長

（日程）

（テーマ）



<https://kobeplatform.or.jp/academic-talk/>

6/24	人とテクノロジーが共に生きる未来へ～ロボットとウェアラブルが変える 私たちの暮らし ■神原 誠之（甲南大学知能情報学部） ■大西 鮎美（神戸大学大学院 工学研究科）
7/24	身体の状態を見える化する技術～汗成分解析と筋協調の可視化 ■内富 蘭（神戸学院大学 栄養学部応用栄養学部門） ■木伏 紅緒（神戸大学大学院 人間発達環境学研究科）
8/21	水と森林の未来を見据えた取り組み－地域資源の持続可能な活用と保全 ■柴崎 浩平（兵庫県立大学 環境人間学部 環境デザイン系） ■東 若菜（神戸大学 農学研究科 資源生命科学科）
9/25	地域とつながる教育デザイン－ICTと自然環境を活かした防災・環境教育 ■田中 達也（神戸常盤大学 教育学部こども教育学科） ■深川 幹（神戸常盤大学 教育学部こども教育学科）
10/23	「生活の質を高めるリハビリテーション支援技術の最前線」 ■田代 大祐（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科） ■倉 昂輝（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科）
11/27	「アジアの国際関係と政治の読み解き－東南アジアと中国の外交から見る日本の現在地」 ■木場 紗綾（神戸市外国語大学 外国語学部 国際関係学科） ■周 源（神戸大学 大学院法学研究科）
12/18	「雰囲気哲学と道徳の問い－感情から読み解く人間理解」 ■久山 雄甫（神戸大学 大学院人文学研究科 文化構造専攻 神戸雰囲気学研究所） ■安倍 里美（神戸大学 大学院人文学研究科）
1/29	「高専発・未来創造の探求－ロボティクス×詩の世界」 ■小澤 正宜（神戸市立工業高等専門学校 機械工学科） ■田原 熙昂（神戸市立工業高等専門学校 電子工学科） ■武久 真士（神戸市立工業高等専門学校 一般科・国語）
2/26	「多様な時代の子育て支援：いま、社会が育むべき力」 ■金沢 晃（神戸市外国語大学 総合文化コース） ■春木 裕美（関西国際大学 教育学部 教育福祉学科）
3/26	「生き方のデザイン――思考と働き方が描くウェルビーイングの未来」 ■横内 陳正（神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 人間環境学専攻 ウェルビーイング先端研究センター兼任） ■斎藤 元幸（関西国際大学 心理学部 心理学科）

産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業

令和6年度補正予算事業 全国で27件が採択

日本社会、地域社会の持続的発展に向けて、大学等が地域や産業界と連携・協働し、経営者を含む人材ニーズを踏まえた教育プログラムを開発することで、産学官連携のリカレント教育プラットフォームや、産学協働体制の構築を推進し、産業界・個人・教育機関によるリカレント教育エコシステムを創出することを目的

リカレント教育エコシステム構築支援事業

令和6年度補正予算額

21億円



背景・課題

- 地方創生や産業成長のためには、「**リ・スキリングなどの人的資源への最大限の投資が不可欠**」(令和6年10月4日 施政方針演説)。
- VUCAの時代に必要とされるスキルは、資格や検定を超えた「**分野横断的知識・能力**」「**理論と実践の融合**」等であり、リカレント教育を大学等の責務として行う。
- 骨太2024においても、**地方の経営者等の能力構築や、最先端の知識や戦略的思考を身に付ける**ことについて、記載あり。

経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)2024(令和6年6月21日閣議決定)

1 (2) 三位一体の労働市場改革
地域の産学官のプラットフォームを活用したリ・スキリングの対象に**経営者を追加**し、2029年までに、約5,000人の経営者等の能力構築に取り組む。大学と産界が連携して、最先端の知識や戦略的思考を身に付けるリ・スキリングプログラムを創設し、2025年度中に、約3,000人が参加することを目指す。

3 (4) 科学技術の振興・イノベーションの促進
イノベーション創出に向けた地域や産業界の学び直しニーズを踏まえつつ、産業界・個人・教育機関によるリカレント教育エコシステムの創出に向けた取組を加速する。

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024改訂版(令和6年6月21日閣議決定)
Ⅲ. 三位一体の労働市場改革の早期実行
(3) ③リ・スキリングのプラットフォームの構築
企業成長や労働移動につながる教育プログラムを産学協働体制で開発するとともに、産学官連携で地域のリ・スキリングのプラットフォームを構築する。

事業内容

	主な補助対象	リ・スキリング対象者	成果
メニュー① 【地方創生】	地方自治体・地方大学	中小企業の経営者や地域ニーズを踏まえた人材	産学官金労官等の連携による地方創生
メニュー② 【産業成長】	最先端の教育研究を行う大学	成長分野(DXやサプライチェーン・マネジメント等)に関わる人材	産業成長や構造転換への対応

※支援対象：プラットフォームや協働体制構築経費、産学官連携コーディネーター等の人件費、外部講師への謝金等

①地方創生

産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援
(約4千万円×25か所)



アウトプット(活動目標)

- ◆ 地方創生に資する地域単位の産学官連携プラットフォームの構築・教育プログラムの開発 ⇒ 25箇所
- ◆ 産業成長に資する産学協働体制の構築・教育プログラム開発 ⇒ 18箇所

②産業成長

リカレント教育による新時代の産学協働体制構築事業
(約4千万円×18か所)



アウトカム(成果目標)

- ◆ 2029年までに経営者等約5,000人の能力構築に取り組む
- ◆ 2025年度中に最新の知識や戦略的思考を身に付けるリ・スキリングプログラムに約3,000人が参加する

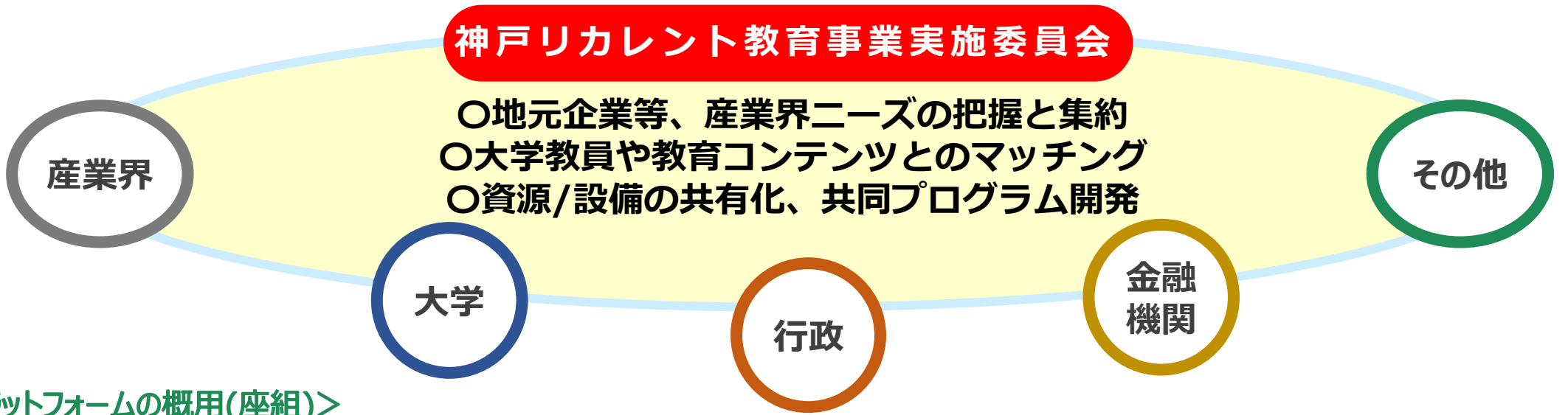
インパクト(国民・社会への影響)

- ◆ 地方創生と産業成長
- ◆ 働きながら学ぶ社会人の増加
- ◆ 個人・産業界(企業)・教育機関によるリカレント教育エコシステムの自走・充実・改善
(担当：総合教育政策局生涯学習推進課)

神戸リカレント教育プロジェクト

～チャレンジし続けるグローバル人材の育成・定着を通じて産官学、地域がともに進化していく～

大学都市神戸産官学プラットフォームの仕組みを基盤とし、プログラムの充実、事業化、市外への波及を通じ重層的な事業を展開・拡大を目指す



<プラットフォームの概用(座組)>

	産業界	大学	行政	金融機関	その他
構成	神戸商工会議所 兵庫県中小企業家同友会 NTT西日本など	神戸大学、神戸学院大学 甲南大学、兵庫県立大学 関西国際大学、神戸市外国語大学、神戸市看護大学	神戸市 兵庫県	三井住友信託銀行 みなと銀行	神戸新聞社 神戸新聞事業社
役割	人材ニーズ・課題検討 産業ニーズ・課題検討 業種・業界ノウハウ提供	研究シーズ提供 育成プログラム開発	地域課題提供 行政データ提供 広報支援	域内・域外企業との連携支援 金融/資産活用支援 地域ニーズ/課題発掘 (市場データ等提供)	普及啓発 事業広報

地域の産業、企業の人材育成ニーズと大学の教育資源を適切にマッチング

プログラム開発、実施、コーディネート



企業

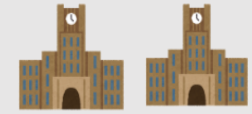
企業の主な課題

- ・人材育成効果に関する大学の教育内容に対する疑義
- ・大学の教育資源に関する情報不足など

ニーズ把握、収集

プラットフォーム

適切な教員等の
リサーチ



大学

大学の主な課題

- ・大学教育と企業ニーズが合致していない
- ・企業ニーズを把握できていない など

(例) 脱炭素、成長分野、生物学、遺伝子学、環境、農業、教育、金融等

【リカレント教育プログラム実施までの流れ】

STEP
01

企業ニーズ調査

コーディネーターを配置し、企業ニーズを調査

STEP
02

大学教員の調査及び
大学教員への打診

講師候補となる教員をリサーチ、選定、打診

STEP
03

プログラムの開発

企業課題やニーズに応じたプログラムを編成

STEP
04

プログラムの実施

専門性と教育効果の高いリカレント教育プログラムを実施

企業側、大学側のそれぞれの分野に専門性のあるコーディネーターを配置

企業連携コーディネーター

【主な担当】

- ・ 地元経済団体との連携
- ・ 企業ニーズ、課題の把握
- ・ 企業との連携強化

【業務内容】

- ・ 経済団体や企業への訪問やヒアリングを通して、課題や潜在的なニーズの把握。
- ・ 企業、業界が求めるスキルや知識を具体的に分析し、プログラム開発に反映させる。



民間企業で長らく広報宣伝業務等に従事していた人材をコーディネーターとして雇用
(週2回勤務)

大学連携コーディネーター

【主な担当】

- ・ 大学教員のリサーチ、マッチング
- ・ 教育プログラムの開発支援

【業務内容】

- ・ 大学の研究者や教員とのネットワークを構築し、最新の知見をプログラムに反映させる。
- ・ 大学の教育資源を活用し、質の高いリカレント教育プログラムを開発する。



大学でリカレント推進を担当をしていた大学教員経験者にコーディネーターを委嘱
(都度、相談を実施)

●一般向けプログラム

	類型	プログラム名	内容	日時	回数	主な講師	参加人数
1	汎用型	金融教育リテラシー教育	経済的自立を促す社会人向け金融リテラシー教育	9月～1月	53	甲南大学 三井住友信託銀行 他	30
2	汎用型	医療・介護事業の経営持続性と発展性を担う人材の育成	神戸学院大学中心に4大学が連携し、医療・介護経営の持続的発展を担う人材を育成。	10月～12月	20	神戸学院大学 神戸大学 兵庫県立大学 神戸市看護大学 他	30
3	オーダーメイド型	越境体験学習（空き家・空き地）	地域に根ざした社会課題への取り組みと組織外との交流を通して、新たな視点や自己変革を促す越境学習リカレントプログラムを実施	11月～1月	5	神戸大学V.School 他	25
4	オーダーメイド型	多文化コミュニケーション	グローバル化に対応できる多文化コミュニケーション研修の実施	12月	2	神戸大学、 神戸市外国語大学 他	20
5	オーダーメイド型	数理データサイエンス・AI	ECサイト運営事業者が、多様化する顧客ニーズやAI技術を効果的に活用し、売上向上を図るための総合的な知識・スキルを習得する。	9月	1	神戸学院大学	3
6	汎用型	データサイエンス数学基礎講座	数学知識不足でデータ分析に課題を持つ担当者向けに、数学基礎講座を開催。	1～2月	4	神戸大学	20

●経営者向けプログラム

	類型	プログラム名	内容	日時	回数	主な講師	参加人数
7	オーダーメイド型	兵庫経済の特徴と課題	地域産業の歴史や現状、社会的分業、イノベーションの重要性、地域連携の必要性などを学ぶ	10～2月	4	神戸大学 兵庫県立大学 神戸学院大学	40

<企業ニーズ>

- 市内の食品製造企業では、深刻な人材不足を背景に外国人従業員の採用が増加。他方で、日本人従業員が外国人従業員の文化的背景や生活習慣、宗教、言語の違いを十分に理解できず、職場内コミュニケーションの難しさや定着率の低下が課題
- そのため当該企業では、多文化理解の促進や日本語での円滑な意思疎通を学ぶ機会や、外国人材と日本人従業員が働きやすい職場環境づくりが急務

<プログラム内容>

- 2部構成で、外国人の文化・習慣などを学ぶ第1部と共通言語として「やさしい日本語」を学ぶ第2部で構成
- 企業の工場施設内で実施し、特に第2部においては、製造現場の従業員も多く参加できるプログラム



<第1部（令和6年12月16日）>

◆受講者

本社人事・総務・経営者層 4名

◆テーマ

人口減少社会における人材確保

神戸における多文化共生

日本/神戸に暮らす外国人と在留資格制度

（事例として）インドネシアの文化・習慣・宗教

<第2部（令和6年12月26日）>

◆受講者

工場で働く従業員（現場リーダーなど） 20名

◆テーマ

職場の共通言語としての日本語「やさしい日本語」

（事例として）ベトナムの文化・習慣・宗教

実施済み

	類型	プログラム名	内容	実施時期	回数	主な講師	参加人数
1	オーダーメイド型	越境学習プログラム	異なる専門性を持つ人材との交流によって行う、地域課題解決のための人材育成	令和7年11～12月	終日×4日間	神戸学院大学 関西国際大学	32名
2		マネージャー向け研修	経営視点を持つためのマネージャー向けリーダーシップ論	令和7年12月	1コマ120分	神戸大学	16名
3		経営者向けセミナー	ダイバーシティ・マネジメント	令和7年11月	1コマ90分	神戸大学	約30名
4		経営者向けセミナー	組織におけるコミュニケーション（フィードバックと心理的安全性）	令和7年12月	1コマ90分	関西国際大学	約50名
5	汎用型	高齢者の医療・介護を支える人材育成講座	高齢社会を支える持続可能な事業経営に向けた、発展性を担う人材育成	令和7年9月～12月	全8日間 計24コマ	神戸学院大学 兵庫県立大学 他	16名

実施予定

6	汎用型	データサイエンス 数学基礎講座	数学知識不足でデータ分析に課題を持つ担当者向けに、数学基礎講座を開催	令和8年2～3月	1コマ60分 ×5日間	神戸大学	約15名
7	オーダーメイド型	経営者向けセミナー	組織変革を成功に導くリーダーシップ論	令和8年1月	1コマ90分	兵庫県立大学	約50名
8		経営者向けセミナー	経営戦略のマーケティングとブランディング	令和8年2月	1コマ90分	神戸学院大学	約50名
9		ライフマネジメント フォーラム	自己理解と自己効力感の向上、主体性・生産性の底上げ、DEI／女性活躍の推進	令和8年1月	半日× 2グループ	神戸学院大学	約100名
10		不動産金融研修	不動産と金融、および住宅不動産データ分析	令和8年2月	1コマ120分	神戸大学	約30名

令和7年度 産官学連携による越境学習プログラム

<企業ニーズ>

- 事業環境の急激な変化に対応するため、**新しい視点で課題を捉え、柔軟に考え、行動できる人材育成**が求められている。
- 組織・業種、世代、立場などバックグラウンドの異なる者同士が対話し、地域のリアルな社会課題に向き合うことで、参加者が自社内では得られない視点や選択肢に触れ、**視野の拡張と行動変容につながる気づき**を得られる場を設けたい。
- 中小企業において、BCP対策など防災・減災への取り組みがまだまだ進んでいない。

<プログラム内容>

- 本プログラムでは、大学が持つ専門知識やデザイン思考の手法を活用し、**異なる世代・業界・立場の参加者が深く対話する場**をつくることで、参加者が自らの前提や価値観を問い直す「越境の学び」を実現する
- 令和5年度から毎年、損害保険ジャパン株式会社と共催で実施しており、令和6年度は「空き家・空き地」をテーマに開催。今年度は、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中で「**中小企業のための防災・減災**」をテーマに実施。

◆受講者

企業・金融機関等社員、神戸市職員 約30名
（自動車販売業、不動産業、通信業など）

◆実施時期・回数

令和7年11月～12月
平日10:00～17:30(1時間)×4日間

◆実施内容

- ・大学教員による防災の基礎講義
- ・企業・病院の災害対応を想定したワークショップやロールプレイ
- ・中小企業経営者へのインタビューによるリアルな課題理解
- ・デザイン思考を用いた共感・定義・アイデア創出のプロセス
- ・異なる業界・立場の参加者がチームで協働し、最終日に解決策を発表



<4日間のプログラムイメージ>

DAY 1	テーマへの理解① ～ 基礎理解と防災ワークショップ～
DAY 2	テーマへの理解② ～ 企業危機管理と対応のイメージ化～
DAY 3	デザイン思考ワークショップ① ～共感・定義・アイデア手法～
DAY 4	デザイン思考ワークショップ② ～試作・検証・実行～ 解決策の発表



<企業ニーズ>

- 市内のIT企業では、事業拡大に伴い社員数が急増、組織をけん引できるマネージャー層および中間管理職育成が急務
- 外部コンサルタントによる研修を実施してきたものの、学びの実感を得にくいなど研修効果に課題。自社の現状に即した実効性の高いリカレント教育の導入が課題

<プログラム内容>

- マネージャー層に向けて、全社戦略の中で自部署や自身の役割を捉えなおすマネジメント研修を実施
- グループワークや質疑応答を交えたワークショップ形式を採用
- 「マネージャーの役割」の本質を深く理解させることで、既存の考え方をアップデートし、現場での具体的な行動変容を促進

◆受講対象者

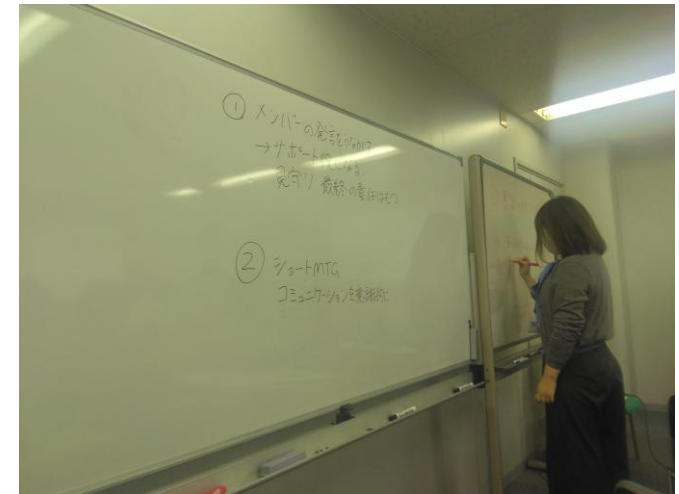
マネージャー層 16名
(企画営業職、開発エンジニア職、クリエイティブデザイナー職など)

◆実施回数

120分×1コマ (講義・ワークショップ90分/質疑30分)

◆講義テーマ：

- マネジメントの「見取り図」-マネージャーの勘所-
- ・マネジメントは何をすればよいのか？
 - ・マネージャーとリーダーの関係は
 - ・マネージャー/リーダーにとって、何が重要になるのか



<企業ニーズ>

○兵庫・神戸の企業が地域に密着したビジネスを展開するにあたり、地域の産業・経済の歴史を知り、地域社会の理解を深めることは、企業の経営戦略を練る上で必要不可欠な知識となっていることから、令和6年度に兵庫県中小企業家同友会と共催で「兵庫経済の特徴と課題」をテーマに3つのセミナーを開催

○令和7年度は、上記結果を踏まえ、会員に対して実施したアンケートの結果、会員の関心の高いテーマ「**組織マネジメント論**」「**経営戦略論**」「**組織行動論（心理）**」を軸に**中小企業の経営者向けのセミナー**を実施

ダイバーシティ・マネジメント —日本企業における現状と課題—

◆受講者

中小企業の経営層 約30名

◆実施時期・回数

令和7年11月26日（水）
16:00～17:30（90分×1コマ）

◆講義内容

- ・ダイバーシティ・マネジメントにおける問題の所在
- ・ダイバーシティの有効性
- ・ダイバーシティ・マネジメント推進に必要なこと など



意見の食い違いを活かすコミュニケーション —フィードバックと心理的安全性—

◆受講者

中小企業の経営層 約50名

◆実施時期・回数

令和7年12月11日（木）
16:00～17:30（90分×1コマ）

◆講義内容

- ・意見の食い違い
- ・効果的なフィードバック
- ・心理的安全性 など



<企業ニーズ>

○急増する高齢者人口とともに本格的な人口減少社会を迎える中で、慢性的な人材不足や限りある資源の有効活用といった課題を抱える、医療・介護事業分野では、**サービスの質向上や事業の安定性、持続性の確保は喫緊の課題**となっている。

<プログラム内容>

○国や兵庫県の最新の医療・介護政策、認知症や地域包括ケア等の最先端の医療・介護に関するリテラシー、医療・介護現場に特化したデータサイエンス、DX・AIの活用方法など**医療・介護事業の経営課題を網羅的、総合的に学べる**リカレント教育プログラムを令和6年度から実施。

○昨年度の参加者の声を受けて「**参加者間のつながりが持てるワークショップ**」「**最新の取り組みを実施している施設の見学**」なども盛り込んで実施

◆受講対象者

医療・介護事業の経営層・管理者層 16名

◆実施時期・回数

令和7年9月～12月の土曜日もしくは日曜日
13:00～17:30(80分×3コマ)×8日間 【計24コマ】

◆講師

・大学教員や行政職員など

◆終了認定

出席率等の基準を満たした受講者にデジタルバッジ（修了証）を発行予定



【講義テーマの例】

- ・医療介護政策の方向性について
- ・神戸市の介護予防・日常生活支援総合事業
- ・これからのケアを考える～北欧ケアと我が国のケア～
- ・高齢者の医療・介護と栄養の重要性について
- ・人材紹介会社に頼らない採用と育成・離職防止のポイント

<企業ニーズ>

○DX時代において、データの分析・活用をするためには、数学の基礎知識が重要となってきた。しかし、久しく数学に取り組んでいない社会人や学生時代につまずいた数学に苦手意識を持っている社会人が多く存在している。

<プログラム内容>

- データの分析・活用が求められる中、その基礎知識を得るきっかけづくりの場として、「数学基礎講座」を昨年度に開催。
- 座学だけでなく、実践的なアプローチを重視し、Excelを用いたデータ分析の演習なども実施
- 今年度は質問・相談会として実施日を1日増やした形で実施予定

◆受講対象者

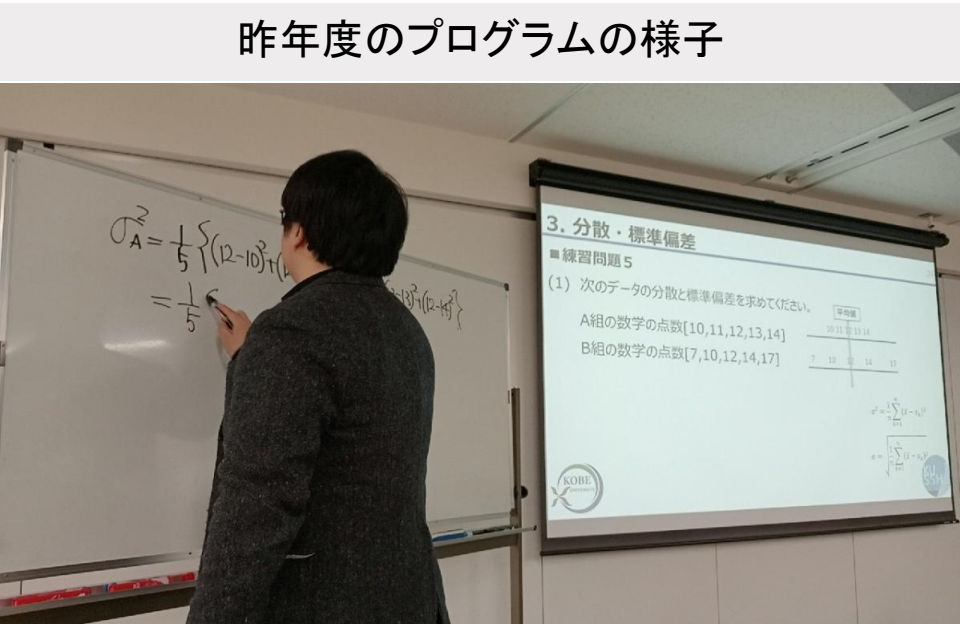
- 企業の経営者・社員、行政職員、大学職員 等 【先着15名】
- ・企業でDXを担当することになり困っている人
 - ・DXを学んでキャリアを積みたいが、数学が苦手な躊躇してしまっている人
 - ・DXを自分で少し学んでみたがつまずいてしまった人 など

◆実施時期・回数

令和8年2月～3月
平日18:30～19:30(1時間)×5日間

◆講義テーマ(予定)

目標：相関係数と散布図を理解できるようになる。



昨年度のプログラムの様子

<5日間のプログラムイメージ>

DAY 1	平均・標準偏差・共分散の導出
DAY 2	相関係数とは？相関係数の使い方と式の意味
DAY 3	相関係数の用途と実際に使う際のポイント
DAY 4	Excelを用いた相関係数の実践
DAY5	質問・相談会

1. 大学側の課題

●企業ニーズとのミスマッチ

- ・大学が独自に企画したプログラムが企業側の実際の課題や人材育成ニーズと合致しないケースが少なくない。

●大学間の取り組み格差

- ・リカレント教育に特化した専門部署の有無など、大学ごとに取り組みレベルや体制に大きな差がある。

●教員の参画意欲

- ・大学教員のプログラム開発等参画へのモチベーション

2. 企業側の課題

●認知度・活用度の低さ

- ・中小企業では、リカレント教育の内容・効果が十分に認知されていない。
- ・時間の確保や費用負担が壁となっている。
- ・大学の教育研究リソースが、人材育成に直結するのか疑問視されることも少なくない。

●推進体制の不備

- ・社内で研修を企画・支援する体制、学び直しを後押しする文化が十分に整備されていない。

3. その他

●学習成果の客観的な評価と可視化（ソフトスキルの壁）

- ・プログラムの学習成果が数値化しにくいソフトスキル
（課題発見力、異文化理解、リーダーシップ等）に偏る傾向
- ・企業側が受講者の「何が伸びたのか」を客観的に判断する共通の物差しが不足

ご清聴ありがとうございました。

